

『市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり』
第1回ワークショップでの質疑の内容

	質 問	回 答
1	スポーツ推進計画は市の中でどれくらい力を入れているの？（マンパワー、予算が増えているかなど）（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを対象とした“部”がある（職員 30 名）。 ・スポーツ施設として 38 施設の運営も行っており、その維持管理を含めると予算も大きい。
2	高齢者の健康づくりの視点で、福祉計画とウィンタースポーツの推進の取組は連携しているか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画でも健康づくりを位置づけ、連携している。
3	ウィンタースポーツに対する行政施策のターゲットは？（年齢は 20 代以下なのか、中高年なのか？トップアスリーの育成なのか健康づくりなのか？）（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年代の市民を対象にしており、スポーツ推進により、まちを盛り上げ、経済の活性化にもつながるようにしていきたい。 ・スポーツをする人を増やす取組を進めている。トップアスリーの育成は競技団体が進めている。
4	スポーツの定義は？どんなものが対象か？（スキーだけでなく色々ある。雪合戦なども含むか？）（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・身体運動全てをいう。雪合戦は含む。 ・雪かきもスポーツと考えられるかもしれない。
5	障がいのある人や病気の人がスポーツをすることをサポートする体制はあるか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉計画の障がい者施策と連携している。 ・ハード面の対応として、施設のバリアフリー化を進めている。 ・パラリンピック誘致に向けて、競技力の向上に向けた検討を保健福祉部門と一緒に始めた段階。
6	札幌のウィンタースポーツの環境は本当に良いのか？カーリングスタジアムは予約で一杯と聞いている。対人口比、使い易さ、開館の日数などのバックデータを知りたい。（6グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリングスタジアムの稼働率は 80%。 ・カーリングスタジアムの利用状況等のバックデータをお示しする。→次回回答 <p>【回答】 別添の全国のウィンタースポーツ施設資料のとおり</p>
7	世代別に考えた、スポーツの機会を設けるような取組をしているか。（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・全世代に対してスポーツに対する関心を高めたいと考えている。特定の世代をターゲットとして考えた施策は行っていない。
8	スポーツ実施率はウィンタースポーツとギャップが大きい。冬はどういうスポーツに取り組んでいるの？冬にウィンタースポーツ以外のスポーツをやっている人が多いということ？調べ方は同じ？（5グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで把握している（1,000 名）。調査項目はスポーツの競技種目と取り組んでいる回数。 ・スポーツ実施率は週に 1 回以上スポーツをする方に対して、ウィンタースポーツの実施率は年に 1 回以上ウィンタースポーツを実施する方の数字で出している。

		<p>【訂正】 (1,000名) →(平成26年度)5,000名(回収2,002名)</p>
9	小学校でのスキー授業の数やカリキュラムは？(6グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校を対象にした施策に力を入れており、小学校202校で100%実施している。(H13~26年度までずっと100%) ・平均年間10時間(高学年は2回/年、スキー場に行っている。)
10	中学校の部活動(スキー部など)の数、データはあるか？(6グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィンタースポーツの部活はフルシーズン活動している部はほとんど無く、クラブチームがベースになっているが、中学校のスキー部、スケート部として大会などに出場している。 ・学校単位の身近な取組になると良い。
11	小中学校の競技大会はあるか？(競争も大切)(6グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・中体連にウィンタースポーツの大会がある。小学校にも全国規模の大会がある。 ・小中学校の競技はクラブチームがベースになっている。学校単位の身近な取組になると良い。
12	スキー授業をサポートする人は、学校からのニーズが高いのか？インストラクター募集の方法は？(5グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は中学校97校のうち、93校でスキー学習を実施した。うち77校で申込をもらった。 ・取り組んでいない4校のうち、スケートが3校、グラウンドでの雪の体育授業が1校。 (具体的にどんなことを？→次回回答)。 ・インストラクターは、スキー連盟にお願いして派遣してもらった。 <p>【回答】 グラウンドでの活動としては、「雪中運動会」を実施している。</p>
13	なぜ指導者派遣に部活を除いているの？(5グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・部活に地域の指導者等を派遣する取組は、教育委員会に別の仕組みがあるので、すみ分けている。
14	「健康づくり」はスポーツだけではない。もっと身近な、道具が不要な健康づくりの方策は無いか？(6グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングなどには区や健康づくりの部でも力を入れている。 ・ウィンタースポーツでは、札幌市で「スノーホッケー」を考案もしたが、より身近なものの検討は課題。

15	<p>ウインタースポーツキャラバン事業の、身近な公園とは、例えばどこか？ 大きい公園だけなのか？(6グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から申込をもらって、その近隣の公園で実施。 ・「雪に親しむ」をテーマに雪まつり後の大通公園でも実施した。
16	<p>親子をターゲットとしてウインタースポーツの機会をつくる取組はあるか。 (5グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインタースポーツキャラバンもその取組の一つ。 ・次の世代に繋げていきたいので、親子をターゲットにした施策に力を入れていきたい。
17	<p>「子どもとトップスポーツ選手との接点。どういうものを実施しているのか、していたか。(5グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロの試合に招いたり、直接指導を受けたりできるなど直接のふれあいに取り組んでいきたい。 ・ユキセン事業などもその取組の一つ。